扶桑拾葉集　十一

扶桑拾葉集卷第十

目録

和歌文藻集序　釋頭陀
藐求和歌序　源光行
百詠和歌序　同
俊成九十賀記　源家長
愚管抄序　釋慈圓
賀茂乃大明神百首和歌序　同

尊經文庫

奉納御靈院和歌序　同
光孝歌合序　同
早率露膳百首歌　同
少納言藤原為時朝臣歌合　同
文集和歌集序　同
百首和歌　同
太御門に奉る序　藤原家澄
格中納言家歌合序　同
愛心集序　鴨長明
瑩玉集序　同
方丈記　同

扶桑拾葉集巻第十

参議従三位兼行右近衛權中將源朝臣光圀編集

和歌文藻集序

釋顯昭

北山隱士如法師伊尓文月朔朝廣月乃結願善
提講筆ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

まゆみひきなとせし酒はしらねく
やまと井の清水あさくそなりにけり
なほ八津の出口はしらす 殺道
のうちやみちもうしなくみのくきのわたた
ねく御つねのうきつを作まねなきさふひ
うふひわらいて 四月もむこ
とまの小山口人もくもちもちをふ
ちるしとなむ云て作とふ老翁の云
座さしくわるれさるの少つくく奥
あるもきる事うれきふきを決とえて来り
素懐をさらん自許 宮わふむ不堅しく

寄小具しくく居冠をとの〻紅葉の初紅
なり 俗作とぬむとい〻も俗作わひる
しわ亦の本紙をとりもて門前の赤葉小
くくんと云て入道の云金佛をとて 俗沈
を法を俗て羅の奏なる又文籍を歌
て胸膳て神くく顕後事なもて 俗ちる
り老翁の云世居文なの業 程云 俗沈の云
あもも 潰佛 京の 因 轉 法 輪 法 輪 の 孫 ひ 沈 ま
沈よ羅る 青 大 徒 みな 沈 の 星 人
小 法 あく 今 ま 冠 を 何 黙 ちん 且 一 隅 と ち ま
して 神 小 三 輪 を 拍 手 見 聞 憶 拍 て 口 傳

むかしこしと云、入道の云、南都をこのそ
さらさらせもの、年作まてい求学
をしるもの、二十年もをりしるもの方もも
らんと歌を始めり、後小年きく云傳佛
稽古をなるまもの、廣玄とまりのこうん
師匠の説り伝て所要の座をきくうせと
相てをむかふの道也もしして云、九旬老耄、
美見久寿をもの多年の知音恵志こ
うみうしし、導師ともり往相をとり
むかふ間六義の分をとしへ五句の証をと
もり不審行行の宿りいの宿りをよく

仰八篇をとて粗若の要を挙む、一よい
和寿孫記二ていい種しく脉こりい遊病次
第ていい詠作を孫五ていい撰抄時代六ていい
不審歌仏七ていい通用方云八ていい新歌
玄釈なり是いい和寿の起業制作のよ
なり是をまかひさをもれいい詠と
得むを知

叡求和歌序

源光行

叡求を学験の意根をもりたてもあるさ
のをなれあり光ていいくふ仏和歌いい神祇

のたまはくすりさくてわすれぬることこそ
[illegible]
いかなる月とはいはねどもものわすれぬ
[illegible]なりてこれ書とはなほ文といふべしと作
[illegible]
[illegible]
[illegible]

四日は四里の浪をしのぎて
まり一ぞくはなれわかるゝ 明
ひろまれるとなれる
へ多りさひさしくなりまれもとのとこに
もの光るものあるところまをこうりてく
なりといへるもまことのところにあるとこ
いへるもまことの中に雷鳴ありて雨降る
はなはだ日氏のあるとこ。心の色に霞とわ
さまを曉をひとへに赤人おもひを抽
ひとゝふ事なし 俊成十案の若は文を
繕侍るに四旬の紙をあらためて蓋

四紙の中紙をひらくに句のをぬき
いて二百字の奇を連ねる十あまりあまりの巻
をなせるこゝろ秋の風はなれ高
いろふかきをいへるもいとゝ
とをなるこゝろ色にあらはれ
青かゝれゆくこゝろとなんいへる

俊成九十賀記

源家長

よろこびは道にまれひとをきくに人々
まゐりあつまりこゝろをあつめて
いて日をかさねかなりて佛の

十五丈道をとりて行すみちひ
きまゝなるうえ和泉は道を
いひそひたるやうに成いと路の名をも
つけ或は清きたなれのうとすをひ
或は野（ゝを）にしれ行さつゝ或
をのゝ中のうつくしき小野うり所々
ゝ清水ひさしをのうえ行よイ家
の物は中ねの中とゝ又の
入道の後ゝ中をもしらイ
をゝ原は
これひとゝ

ゝ行先の海をゝいるうんとはえ
し海のうゝ行ゝの浦を行さ
ゝしうふとうれ山をなりを
ゝ行ゝ行ゝ行ゝ
ゝ山ゝ
ゝ浦ゝ
ゝうん
小藤原ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ

[illegible]
宝亀の中将の[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
今年[illegible]
[illegible]
人の[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

霞

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]の[illegible]

月

秋の月　[illegible]

[illegible]

紅葉

[illegible]

[illegible]

冬帖

千鳥

[illegible]

[illegible]

[illegible]

きよらにして清なる水の中に
浮びて、武蔵野の
なるひとつ家に八重
なる西の方のよりは杉の殿原
とねりなりしてきさきの
いふ皆西殿原人い東宮八通やまき
侍る。彩三位宮の御方にまを
けまきまきのわらはべ
発りまもあるうりんらうなる
一きかさ、ちかまきしきと義しの
きもれくうりくはりきなけ　しを
えものりやうして　ひきかうし　狐子

ものすらひうのなを作り
ちきの上のよりは　四月まきうし
かりかりはいはいまきしをあは
えはうりうりのきりかりは枝なと
とは芸製製の　年い女房子内てうを
絵つ、つえの年　御方や　色ら
主代代人とは　御方　定のまきと
うん、

けさの年

なりへて　けさやうれうき　老の涙
八の代とは　けて　まりつうん

杖竿

[illegible]

けさはいかにしてきれし杖なりとて
こしらへもとめてこれを
伊予の物い源大納言通資陸奥守さ
ぬきいれ給ふ所に伊予の殿上人伊きよ入道
のおもんぱかりにて人らまきこの杖
くらんとて乃中納言伊予殿に遊びまう
大納言資房卿ゑ懐中御手紙を
云給ふ所に云給ふ所に伊予殿御返事杖

和琴、雅経筆、葉、色いろいろ奇なるものの
さいまきに人となり、伊予殿をとりて和歌ありけり

御製 後鳥羽院

ゆとせもちる伊予杖のふしのあふ
こえてもしらぬゆく末の

参議藤原定家 資賢卿

きりうりひて花をこそ杖をとり
春をまちかへるなるべき

[illegible]

ゆとせもきゆく人をなげうん
ふしなしせしつきの君の代まで

五代の天皇
ときみふりゆくとも
ちるなくていとふるる
ゆくえのひいん君うへん
ちとせはれのはるよりもとて

権大納言
そこにそこにそこせをしるね若比神
きみよやはいこうるわる

太政大臣
五条に五代へん君と結つまて
むこうの神やあらわるるん

大納言通実

うこきわきそこわれ比のはけまて
五年比ぬとあるうこまてれ

権大納言隆房
九十齢と長てゆつてをてい
行末祈てとこ常つくれ

権中納言重家
きみへんちれこうへ九十
うしくこまもはうこわき

権中納言経
きもとそもむもの露比聲おう
天ぬうてかまこ君の代これ

かきうるきさたるものの心ばへ
らるせのはゝとゝ仕こうぬへ
右近中将通之
かゝるまい元年ことしよりるみこう
なれ作るる者ゝ代まゝ
参議通具
かうへ作る者ゝ代のはるれ
る代ゝのうちゝもひこう
正二位俊家
和年代酒ゝ年るみも四ゝ

権中納言範之

四代をうれゝき物らくのゝ
正二位成家
九十ゝ九をゝんゝうれゝきふ
者ゝハゝ代をゝかもしゆゝるゝ
土御門院
光られさゝ紅ゝうをゝ思をれゝり
ゝゝのゝ心乃ゝ称の月新
宝家卿
者ゝきふ十ゝせれ数をゝ思ゝ動て
九ゝ九れゝゝ角ん
仲通卿

ありふきの杉をしひあり高殿に
ちふちをふる雨のつけて

[illegible]

きみ代てふ松のちとせをかぞへんと
みちのくに花もくふ咲くきり

雅楽

雨の代ふむしてにくる雨に
行ゆくもとわるまうる風

奥歌

きみ為にちとせに花を給人の
時の栄えをふゆゆみるまる

[illegible]

源氏物語

いくふひをいまやむろうん

[illegible]

久方の雲ふさうゆくみるきあると
行方のわふもをそうけき

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

とうつりたる侍従秀雄や門ちゝ如
うつせられ作し
これ侍えいわうゝ秋元の
やとうつりよの紅乃あなり
君う代い若のいうわうてそそん
そうりかうたる世神
せうとおのせられしふ雅絵
い百多侍きわ雲ねのうゝ乃秋
なん代さゆうんうたれうし
ゆそそそん若れいわうとなりて
あ代とうゝよあまつうき夜

きゝうゝゆくすゝあううゝ紀
侍五やうゝうゝをよくゝれてあうき風
もきうゝん秋わけうゝうちうきよ九三日れ
月うゝあやうゝうゝさおていと作のうゝく
のうゝといとうゝうゝふ秋れさ海やうゝう
遠仁三ゆるん侍うゝ三ほなのとしん
そのうゝうきうゝあれふうゝれくうう
れうゝきさんうゝわうゝより文乃ここ
そうゝふくものしいまひうんうゝを
いうゝもみうゝきうゝ名ゝをときえ作うし
あうれ平の通うゝたうゝうるさ海うゝ式

世にすくれたる人は仏にも二乗に
中ねはなるとなり中あり
ふるまいのことなり
をしへにたがひ仏の
きいたのうちにも見えたる人とのしるまつ
うせられて仏法人とのことなり
きいうちにせまりとのたりひあ
ひとへにたかくまのしまひしまひ
まうひして仏しを分けるう
ちかうへうはかりつまうし
ねしの者

まのひうをというとふ
むし

ときれけりとなる日うをかをへて
かうううれ推業の能
をにかいかなるをひしに
なかくへ通のせ
かくのこ仏

愚管抄序

釋意圓

年月於人日ふる俗てふ物の道理紙のこ
ひはき事を玉ひ孫ををるは先

はいとせ年をへてきすあれ世ありて
中をへ久しくをこんくはれむしより
うはつかうの事をあらはしかりかえ
て神代の御代をへてをもを人代とうの事
神武天皇より御後百七十きこゆをそ
ありのうちをなくて八十四代をのうた
きの中に保元れれいくをて後の事
をも又世俗にうりとり物ゝ書ぶさう
人をもゝあれとやうをもをもを
いをえくゝ作をもそれをうるをそれ
をうをうをうをんゝ作れを保元を後世事

をうをうゝ乱世ありて作をいろき事ゝて
のをあるむををうゝ武将て人ををとをあるを
をををうりかりて一をうをうをうかをう
かをうをうをうをうをゝ乱世をさを
世ををいてをををいつをうれを後をたいれ
てをうをかゝををとをくゝ人をうをてこれ
道理ありをむくんのをありていをうを
ををれをかをうをゝ事をくゝの作れを
正統をををいはくくゝふゝ紙をやををむと
ををひををゝれつを作をうり里代年代記を
後ゝ乱れををは作をうをうをゝ作

奉納百首和歌序

賀茂の大明神に奉納百首和歌序

世のなかやまとの国もあしはらのうへの
御世なりけるとき、あつまのくにのひと
びとこぞりて、又新しきいろ〳〵世一家にと
なりぬるなかにこれもまた
つねといひながらいつくに昔今のことはさり
春霞たなびくと月と春みやこ
りの空の雲の間のうつり行きをも
はるかにたちをくれをのがひ

あるは滅をちかきまもる中にもこれはなほ
ものゝみちのことはりをわきまへ
ぬ沖佛のちかひをとくなるべしこれ偽教
大師は我立相と冥加といはゝ意義大師は
月日のさきをまて老をもとめ
ものゝ道をはかりまつ
の集にはたゝひとつの教
はなさこそはのへらまほしけれ海山
の花鳥の歌にもあらぬ
ことゝ月山の嵐を友のみゝ
の行やまそも人のすまる

[illegible]

[illegible]

[illegible]

奉納霊院和歌序

同

[illegible]題をよみて反はきて
甚すゝ[illegible]きはなまてを慈円大師
を二師とし[illegible]
太子法師を意乃[illegible]唯佛法の郷のこなを
八洲世の地稱[illegible]元信乃[illegible]を神な

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

てハ侍るぬるすゝしいはやこ首代よみ
てそやう侍ぬ〻と太子代幾さき所
とのよ納受あるべき面なる夢とはるふ人侍
ハ〻るの風流というかもやとゝ正月一日
ハ縁にかりたまいそのりもりにりまふよみ
てゝ〻も京一巻と書たまりつ長くを
中ゝ大夫乃東ふあつ〻ゝ戸侍ゝ同月十四日亜
霊院内殿よりしゝもそれ侍りぬ

老若歌合序

同

ゆきもやまとゝゝふとゝいふい和ゝ西のゝとわさ
ゝてさんるる物なる歌ゝ七ゝ七ゝふ面
いはゝの句ゝゝゝ大ゝゝりを表ゆをすれるる
面ゝ真俗ゝ道とゝるれゝゝものなゝ
言語ゝるゝゝゝなゝ道ゝふものなゝ
仏身ゝ情草木ゝいゝる俗俳ゝゝゝゝりとゝ
なゝゝゝゝゝゝゝ天地ゝゝゝみゝゝとふ
ゝれるゝゝゝ面ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

八文字又は五つ塔婆すべてこれ
佛のみちをもさとりなる道とおもふ
梵字をもちひふることなし孔子乃たとへ
他文乃ごとくいみしけれとも風まとをなる道
てそのもちゐをさとすいなる道く国
乃人乃漢字をもちてとかろくれりへ
爲邪の時代の邪ゝ神功皇后ちをさの
十文代代表乃事(古代)をいまとかの文字
をわりもちゐしの
やはこのことりをとるとりいけるもの
文字にしてさの密人い奇のこを

ちきふ男子へふすべの心の風俗
なを文り猪芳なるへ我国あるを
真言乃梵語にて佛のれいをかること
なを道い佛道り却しんをか意も
知へれと漢字ふも假名ほく爲ちい四十
七云をいふこをれ梵語にのこ
ふくやまこと紫ふり却すといを古器と
いふりのわりもを代かもをいのもちと
は文爲れとふれるの事にまと
を天竺よいふ梵語と却るこを中めを
我国のこわをなを道を幸れみちす

に佛道をもなりめ〳〵又國をも治め
政をも事とする此道理よりはじめ和哥
といひつたへもあるべし山の山乃井なる
あるべく夏乃楊の蟬の衣をもうすく
思へども古歌にいとうふかし我心義をふ
もあるべき事にて侍るべしまれ
もひらけもひらけ作るべし作るべし
はぶさふる事なき海にもあり我もくるあ
いろは山の哥にもあり其中ホ
も南膳部州にも佛はおはしまし此
別にも天竺とてもはるかの西お

不可思議なるものにて繁昌絶系成〳〵佛
この國土にあるべしひらけて男門男外
乃浄土にもなるべし水又有のあり様をれ
〳〵をもふ法華は恵心院は源信僧都を
法華とをもふ法は宗なるべし
ちなり煩悩は我身をなる濁世といひて
るべく菩提をたすけ浄土に移ひも
しらんとをもへたまふ法教の中に四教
大時のまるこうく佛教をいのちをもふ
ふるもの也しも生く佛を嫌く
佛をいパそ(イ元)の菩提といいつ

其濁世をそくいまつとるかへて
釋迦佛の地面化の菩薩老をそこ地を
かかるひしあらさはをのたまふなり
志樂お靜室捨大衆横開とそれい佛先
きたいいはこしく甚をとりをれり
人の妙善色りは我乃みやこの塵
りまりうるく阿私仙よりつくし妹のお
のをとすをしるを為をるし佛法をもろ
絃をまひし大邪しらのあをの我立
起り異加を彩しも高野乃山へ色をを
ゆるもをそをるをそい佛をれるを我らなや

佛法すを為りなるまりに甚をいれをるか
ひれふをとなるをくをふいはこを義を
りをそひむつしよ年海をのをらのをを
天祖を為るすをしなを為をるを我をるしく
を知るをるを佐麿よりをを為をしく
をすんをとるをんをふを事よをを新海ふ
はを法師のををりをふ二途乃みちをな
しをを道世のひしををしふをのいく我
為を志りををををと同しかも
今いをを到しををいふをのいをれをはあ
しきのをを為をるをりいをををみち

をたちまち発し、修行して、こころをいたし、
ひとすじに世をいとうまでの深き山
ずまいの時、佛乃成思惟、倩の中よりて
ものふかはふさとりをしるせしやまと
新発意こそと世ふよ、意乃弟子をくるよ発れ
さてそも俗こそ俗世とこそ別まぬ者なれ
人れ思ふ事なる事みく倩まて打ひま
那ひくまれを、さてこそ世ふ肝離
出人ものをへ俗求乃ところもあれい
さんをもて弟子を我へ者ていをこそふ
つひ行ぬ道乃道とは俗ふ打は

さん人を憤闘をすれども、をる静処と
称ふしを思ひ、佛道へいるも思ひ
煩悩とをれ者をも知ひ、て世さ
ゆへに人乃をもへ、乃をを深ものとをん
世ける発意倩つる者つる何出人紀要な
発行を錦と陽行発りとまりをを吉野
山のさくらををとんをを行をを
ひ、ををいあをを我国乃をのくを
佛乃ををへいをんをんをを倩をを
のみまを此をを如をを江ををををい
をを乃秋出人ひ、みををまを倩をん連枝乃

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
葉[illegible]乃[illegible]竜の事[illegible]とかしく四ひいく
侍[illegible]ける和所有の[illegible]
[illegible]侍らん[illegible]
なし[illegible]
[illegible]
乃源[illegible]
讀師[illegible]

に書[illegible]侍る秋濃夕立田[illegible]
河[illegible]紅葉[illegible]
[illegible]朝[illegible]の山の桜[illegible]
人丸[illegible]
[illegible]二[illegible]
[illegible]侍
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

如来の御ことばの侍りしを、新古今乃人々おほせられて
来し世をかたりつめ侍りけるや

早率露膳百首歌

都遠くなれる山寺の夜はさびて見有りし学問
のかなしかりしかの師よりきかまほしう
きかまほしかりしかの家倶舎の書川
うち若き僧達あつまりて、あそびもてあそび、
いまの世乃学ばるるこころの有てしくるや
ひとりをしのかるるまでもてなされて僧

うち奇うみてんやといさむまでもてあそ
ぶ書すする物や侍るといひたれば、学きこと
さ海ぶ書くぶ書くぶ書く、端川院乃百首をう
いてしうしゆ多のうちうちとりて、我ひとり
のうちうちふりふり、端乃日もこの方をも
をもいたいよりてしひをれかれて、学三日年
乃時計、四百ぶ百ぶ、ぶ書くぶ書くぶ書く、
書くぶ書くぶ書くぶ書くぶ書くぶ書くぶ書く
文ぶ書くぶ書くぶ書くぶ書くぶ書くぶ書く
のひろ部ぶ書くぶ書くぶ書くぶ書く雪
ぶ書くぶ書くぶ書くぶ書くぶ書くぶ書く僧
ぶ書くぶ書くぶ書くぶ書くぶ書くぶ書くも
ぶ書くぶ書くぶ書くぶ書くぶ書くぶ書くあ
ぶ書くぶ書くぶ書くぶ書くぶ書くぶ書くま
ぶ書くぶ書くぶ書くぶ書くぶ書くぶ書く

[illegible]世の物語[illegible]
[illegible]百首いとあはれなり
[illegible]と云[illegible]
[illegible]出家[illegible]十二月十一日出
申剋[illegible]十三日乃年の時[illegible]
[illegible]ひ[illegible]
[illegible]
[illegible]住吉の神乃[illegible]
[illegible]世の末
[illegible]物[illegible]
[illegible]百首
[illegible]早卒露膽乃百首[illegible]

拔[illegible]
廿納[illegible]悔[illegible]

同

建久八年[illegible]大理[illegible]基長[illegible]
[illegible]乃[illegible]息[illegible]侍従[illegible]
[illegible]事[illegible]廿納[illegible]
[illegible]八月[illegible]事
[illegible]
以別[illegible]右衛門督[illegible]
[illegible]居[illegible]
八月[illegible]九月[illegible]中旬乃[illegible]

[illegible]十八日念仏[illegible]
[illegible]暁よりのなを[illegible]
[illegible]乃義を[illegible]
義[illegible]二首の[illegible]
默山[illegible]意[illegible]
[illegible]作[illegible]
[illegible]又円大長[illegible]
[illegible]
[illegible]又仏[illegible]
[illegible]常[illegible]
[illegible]

[illegible]ふ[illegible]事[illegible]
[illegible]乃拙の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

亀葉和難集序

同

和哥[illegible]我国乃風俗[illegible]
乃代[illegible]
[illegible]
[illegible]

賤きをみふいるゝ家もまくこれとそゝあ
そふたゝひとゝ我をなりふけるもゝあまをも
人のゝ草木のゝ物ゝ物ゝ物いとゝ多
ゝのゝ物ゝ物ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
元寇角丸ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
相伝繰仏のあやまりとまつくふゝゝゝ
あゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
いゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
一乗ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
たゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]ものの秋を送る海のう
ら[illegible]の星とをいとなむ[illegible]
と[illegible]ひ[illegible]時も鑽仰乃[illegible]に服[illegible]
[illegible]を敬ひ[illegible]をあるれ日い喪[illegible]乃[illegible]
[illegible]ひ[illegible]の世[illegible]
[illegible]をす[illegible]乃[illegible]の[illegible]
[illegible]と道[illegible]人
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

侍[illegible]乃[illegible]
[illegible]中[illegible]
[illegible]
[illegible]

つゝ流れまさることゝ数へうるも世のうつり
ゆけば明らかなるひとつものゝ海なれ
ども山の姿をとゝ山の井
の流れとゝ捨てるゝ明らかなるみよの歌を
選びて古今和歌集となつく移つく糸
竹をゝ音よ秋の月の出の雲中道代源よ
付ひ簾言葉詞同〳〵第一義諦の理よりなり是

百首和歌改

同

進撰の歌よい古今の序を明源てゝみな
るゝとゝの人ゝゝむ和ゝす人の日なり

古ゝゝ和歌よすゝて世ゝゝ
世人いみゝゝ是ゝゝあゝ
意ゝゝ和ゝゝ明ゝ
ゝゝ風信波ゝ人のゝん
ゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ひなうんるうとしまの山にはいろひろ
ふのまえの秋さひろ市ひ市ひ
くんふるいうるはまこうひらん世通こと
うはぬはたひもうけうひんぬ
られそつ紙みまいう路ひん
いうう紙くくいう市もやうくこと
めてくくもなうる多ふはまみて
ひうさぬふふ山ん通くうるうひ
うもゆうもうるよはうなるひゆ
月みもはうまうくみんれともみひゆ
るくいうひへうるるとんひうも作ん

すらうもふひもうひうまうる
何もとうひいうくうるるうう
きれうもそ志のひまうるうる
彼のはまうひ彼若もそも市本待
めてうくいまう世はる市まひる
うるうる兼のうれまる風結ひうう
くうるうくくまうるうるひうん
てひまいうみもくひうる世はる市
のめるうくおいう風ひうるる風
ひへうもううひうるまうひへうる
くうよ及うれひうるるるひうま

[illegible]

[illegible]

[illegible]

流の作方をとりかへても流の
れ家内御製なくとゝまりて勢山くいま
ひとつの事ゝなきてみまいる勢い
ゝ代御百首ゝ代ゝはまいるゝ事
いなりいてゝ年もはのいとゝなる系
もいておゝみまいる勢ゝくいまもどそれ
れかくいる作世御製よいたんれ九ゝ云のも
ゝゝゝ

道をこうくみすうはくくるさ
仏親の事いみさるやうに見えいをし
ゐかを道をゆ成るあるて作成そよ解ら佛
らんしかして佛悪ゆくくしに片悪佛
悪今をてそしのうそも大切の也好みまた
うひて作をん者をよみをしてそうとき
て作をる事庚申乃法東のそうるう
ゆをそるゆ事ゆへて佛をひらん今
いゆをてを見そて弱ていや仏ニ年
一切ゆ佛にうう系へ方へうして苦あいや
れるそひ間うくそうるねいや法を

をけうもそたみいう成る源
もをそうゐまやそまうるあひ和ニ年を
末代よもうをひゆ上根の事ハ
るしきゆみて まういゆ仏部ゆみ
なうひゆをうんのめうくもいてゆ
合ひや好ひるうう人りゆいうすい
佛月もをるなる月とい事のかれ遠
うひて好るし佛ゆ金をてゆ作
ゆるくく

發心集序

鴨長明

佛の教給へる事わが心より師とし成して
も心を師とせざる事なれば實なる
る世にて人一切衆生皆ひとしく佛
わたる蓮葉よりわれ出ぬ泥
と成ぬ　衣を脱て世の塵をはら
はれる人すくなきものなれば
色欲は大常平なれば世のいとなみ
や因果の理をたがへず乃わやま
里もつかるとやう五欲のきは
なるひとをたとなくのうこそ入る
まず心なる人人非ず世事とわすれ
ん

んやうも色に事にそなはれる我心なれば
なる悪なる事と云ふみて彼佛の教へ
のまに心をゆるさずして此度生死を
なれてこそ浄土に生れん事をもとへ
のあるたる弱と陸へて壱岐みてるばかり
し但凡夫の弱弱あり法深あり且自心を
えうるを云と申くるも孤とあるとなり
もわれ佛の教の苗なひきやとて
うこそ又波のよる月乃まるる水似
まりいるまにかくあるを教ひとて
る佛を成生のんれまをかみ給ひ

て因縁譬喩をもつて こころに教ふる我等佛
の法をまもるものいかなる法をもつてか勸誘
たまふ他人知もしられず只我分にあるを程
を考へ是なるを教る方便いかにせん不敬妙
なれども世の人皆すくるるがごとく短人
をうつみく強をよせ源法をもとめたるごと
見事因事をもつてあつめつくしよりて
の方をもつる事あり即賢を見てて及か
たくともひわうよ孫こ是なるをえては
うつる強嫌とせむとなり今これを云よ
天竺震旦の佛因遠はるかに佛菩薩

は因縁に分よたへされん色を形せず只我世に
人の耳をきを先をもつて為言はをものを
きもひさわく定て諸いれわく實はかうん
ふかもひもつる仮なるをを不の名人の名
をもきもひいてをとり風をもひつるかを
こ雅人の色をとりひんものをあれを
人信せよともあるねを必しもたるを
法跡をたつれば道のはるのあるを中
よ我一念の發心を楽むいうやといあり

同

寄合するなり。てのこゝろまちゝまち
ゝ道を学ぶ人をのぼりのぼりのこゝろに入と
いへども、てかてゝもしれぬふけれいをしなる
ものいなれば、風をもてゝ、此ゆへ
家の口傳髓脳みな、かきこゝをのゝ釈
しあ後へ、ゝ伝海いかゝ、かゝす、彼濱成喜撰う
式ゝ、もねとゝ、弥をのせ、芸ゝ、芸れよいる
ゝて、ハ、ゝ、ゝ、ゝ

あるとき、ふみよりうかがいまゐらせ
しをひらけてひらくとて海ら事ハ世中よ
ある人をまみとよみかくのこと玉し
きの歌ハ人ハ心をもつ物なれハ
らをとなたをいやしく紀人乃すまゐ代
をなてはまもれをのるハしと見ぬまとと
身はねハ物もうとまれるハ家いまれるまあ
きをやねかれてとをハ作もあるハ大家ちう
ひて小家となるまむ人を見りおしし
をもらるまらす人をおれというへ
人ハ二三十人ら中ハ世をぬうう

也あ[illegible]なもぬとをるひき
水の池よりそ[illegible]ハしつ[illegible]化しし
ぬる人行方よりまきて[illegible]
らすかるのやう雅ら[illegible]ん[illegible]を悩し行
よりてら目をらこ[illegible]
をみと常をいらぬ海いて朝ハ
の義をあらす[illegible]ハ義ハて花ハ[illegible]
強をといへとも朝日
みく義なれまをを消すといへとも久ハ
をを物ハ人をを[illegible]
四十あまりの春秋を過ぎあらぬ世の不思

議をみる事ひさしからぬ吉安元
年四月廿八日ゆふ風はげしく吹て昼から
ゆふ方より夜戌の時より北の方より
火出来る間なく朱雀門大極
殿大学寮民部省等に移りて一町の程に
庶民多く焼死す大小路辻々に病人
をやすませ粥を食せしめ湯
風はげしく移り来りあるいは
るべきすがひらなれども猶家に煙立
むせびたる紅あるいは一向不の焔を地に吹付
焼死するは庶を吹て焼れい火の焔よ

映してあまねく紅なる中に風に従て吹
られ来る火元一二町を越す吹
焼移り来る中の人はしきりあるもや
あるひは烟にむせびて或は倒れ或は
ふかくさしまりあるひは文わつる
身一かたなるものかれたれども資財を
とり出すに及ず七珠寺寶蔵庶
燼となるもの費いつくして仏殿
仏弟の家十六焼たりてそのいかく
紀すれ及ぶもすべて数の中三分一に及ぶ
男女死ぬる者数千人馬牛の類を除却

らせ人のいとまなきみふるまひもさしも
あやうき京中の家を焼きして宴を費し
人を悩ませ事ども絶てあらざりそ
侍りける又治承四年卯月廿九日（大九日イ元）の頃
中御門京極の辺大なる辻風ありて
六條わたりより（北イ元）起りて（六条坊門イ元）
東三条（東三条イ元）四町を吹まくるまゝ
なる家も大なるも小さきも一つとして
やぶれざるはなし
おもてあらはにして
又門のみを吹まくるに
又垣をまきあげひろめて
いらもや家のうちなる財（資財イ）かなぶつ
をあらはにして
風に乱れ散ること
たとへ
くるものとゝむ事ふ（かたイ）
彼地獄の業風なりけ
形不知家の損亡（セイ）
とりてうつ身をとりてあひてうこと
ひと数をしらず此風ひつ（うるイ元）
を数て
又人の頭をあせり辻風いと

[illegible]
[illegible]
[illegible]

はるかみやこの地にはせくだりて條里をわりさだ
め小いほを傍にたてて南は海に近くなりて波の
音つねにかまびすしくて塩風たえまなくけぶり
いほの中にあれたる松の木丸殿もかやぶきにて
かたちは優なれども侍ども日にそへてあらた
めもせぬあんすはひとりとして家々いはく
に似たるもあるべし牧地はおほく
造まる屋いとすくなし古京は荒廃あれて新
都はいまだなりそめず人々みな浮雲
のごとくなる心地をなん思へる然へども今はかの人も土
地の煩あるまじきと頼みて道のほとりに車
をよせてきいたるよりあり冠布衣なる人もいか
ばかりひとりとなきあり京のてはのうちにはあ
らねども武士などとたのもしげ
なる世の乱ふ相模守をもとりもしれ
ぬ日ぶりに世をうらみて人のこころを
あるまじきまで民の怨はあるべしかく
さらぬだに国年乃冬あれば京よりかち
ぶまでさしたる事もなくて家々に
つくるよりはつくるまでせうし家々に
ものうる人ものいふこえ乃かしこなほ代もて

情をもて國を治め政則法殿に茅を葺き
て瓦をたもつのすべ煙のたえたるを
まれにかまうあるみて物をうゆる
是民を惜む世とそなはけるふうてなり今の
中の世元中の世元海むうしとあるべし知ぬべし
又養和の比とうとうとうと

みちのおく乃国にくかくて夢
ぬかる事いとたちあやうへきこと思ふ行よ
あまたゝび（えきまいイ元）ゑやみ（はしりイ元）ひてまたゝび病
よりおこりて世の人ゝ飢死（やまいイ）はなはだしい日数
へはくきいまを切まを切ものの色ものたゝ
よりけつてあたゝはなはだしきひまを足ひきけく
ゝ鬼（イ元）ゝ多くしき姿あしたる者ひとゝ家（たゝイ）
ゝゝ元あゝくかくひしかしる者ゝ
あまたゝとゝれゝかゝ乞たゝれ（あのイ）ぬはい
ひちのつゝ路の頭よ飢死（うゑイ元）ある彩ひいゝ（ゝゝ元）
もゝ（イ元）ゝしゝまゝまゝまゝゝけきいゝゝ

き香世界よりみゝくゝ（かゝゝ）ゝ多ゝ紛ゝゝゝ
海目ゝ多ゝ彩ぬ事ゝ多ゝほゝをいゝむや
川ゝ（元）ゝたゝい馬車の行ちゝ（元）ゝゝみゝゝ
ゝ（元）ゝ多ゝ山ゝゝ方ほゝ
彩ゝ（イ元）ゝゝゝゝゝゝゝゝゝたのゝゝ
き人ゝゝみゝゝ家（かイ）をゝほゝて市ゝゝ
ゝゝゝ（イ元）ゝゝゝ一人ゝ特（てイ）ゝゝゝゝ紙一
日ゝ命をゝゝふゝゝゝゝ及ゝゝゝ
あゝゝゝ事（元）ゝゝ影のゝゝ冊ゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

すべき方なきまゝに、古寺に入りて仏を
わすれ堂の物の具をやぬすみ取ること
をなりけり。渇恋の世に生れあひて
かゝれんとは思ひ設けしむん作法、又いと
あさましきことなり。侍ひ男、女男な
と持ち給ひたりしかば、恋ひ死にに
かゝりすべきにて、死ぬべき我身をい
ひ給へ。男、おのれ、ぬすびの徳いとく
く思ひ入りたまへ。乞ひ得る物を先
ゆかしくもとめ給ふ。古い新るわる者い定まりなる
らひて新らたまるべき。死ぬべけば、又母に今盗
て、ふるまひ給ふ。紀の乳房よ
まひつゝ、ばかりなりけり。仁和寺に慈信
院の大僧都隆暁法師といふ人、かくしは物
をもめる事を多くなりぬ。死ぬべきおぼえ
その首のみゆるに、額に阿字と書て、緑を結ひ
出だしたるむせしかば、人をしむして、
五月ばかりに、京の中一條より南、九
條より北、京極より西、朱雀より東、道の辺
頭、すべて四万二千三百餘あるべきなり。
やがて、和歌の浦の多く、川原白川
西の京、もろく乃至、死ぬべきをとゝ

[illegible]ものや諸国七座をや、
[illegible]くい崇徳院の御位の時長承の比[illegible]
[illegible]ぱ[illegible]
[illegible]
[illegible]

とあるくるしきあひだ二の日あと一す
つゝもちをまいらせ父母をゝもへて物をも打
ゆをせすみあひて行ゝあれなかれ
くるへ行ゝ子のゝ有るはきをけきものも
命をはなれんとすと云ていとおしく思ふ
とう母人侍りくあひ侍りくかゝる事い出
いしてやうゝかゝる餘波ちからく行ゝ
の波浪ゆ(イ九)ゝくちかの地震(なゐ)二三十度ふる
ぬ日ゝ十日廿日ゝ三ゝ同
ゝ成ゝ武蔵二三度ゝ一日
ませ二三日ゝ一度ゝ大ゝ名殘三度

つゝや侍りむ四大海の中ゝ水火風と
つねゝ害をなせゝ大地ゝ動ゝい殊なる
変をなゝ沈むゝ齋衡乃比ゝ大なる
ゝて東大寺の佛ゝ破ふゝて
いかみゝ出ゝ侍ゝ行ゝ比ゝ
とゝ人ゝ人ゝ
きかもゝのゝ
月日ゝ
以出ゝ人ゝ
ゝ栖ゝ
ゝもや一ゝ

はなを手にはなをかなぐりすてものは
うち分かれあるいは格門のうちに居る
者は始めくよりつうきあるいは大よ楽
ふるひうち居驚すきりかなる時は却てあきて
注事あり進退やすきに居るつもりて恐
きをなくたる人は蔭の者乃菓子を
清きるかうしもしはくして富る家
の清よをうものは相久すかき姿を取く
なるはうひて出入妻子僮僕のうちやすさ
はをみうりも富る家の人乃ふいうろ
なるきて却をやすもに会くようきてと

きうしもやるうちせうきに比よ居る
をく実上する時その害をのがるる事なし
うちきはよあれを性及りはうひ れちく
豊賊の罪をれうしまいうひを者は貪
欲はなくひうち分あるものを人よかるる。
れ宴あれをうれ多く貧うれいなけき
切也人をうをあれは分他のやはうとあう人を
きううあは心恩恵よりつ世よきうく分
くれしまうもうねは相せるよ仏うはは我の
ときうれをあいうあれはうをうをうをうも仏分
をやうう出はもを人を屋も居を乃分乃

方の祖母の家を伺へくるに久しく絶えて無き
ものなれば孫たちの方おとなひくるに去月
五日かはほりやうとなるまをひまもなく
三十餘りて五よ我れと一の巻を折の元を
うつし侍るよりもうつるる十分の一也
及ばず五はうはいちをつまとといへども門
きりたつもの折を拾ひて車や
ぢやうとせるを雪ふり風吹あらかるすま
もはるすわ川原ちらきれる水の難もなく
白波の恐もさてかしけすてあるれぬ世を今
五十余りの年を三十餘年也こゝ
同れるのたひらをのはるみしかき屋を
さとりぬるをいち人十の年を迎へ家を出世
をうむ者うもとよりあるものを捨てきき
よりもれ分け宮仕あるす何のすてか物
をとりむ京にくに大原山の中に住て又五人を
の春秋をうへぬる学よ六十の齢きさらり
をうひて五よ年の齢のやうをむすへる年は
いはく孫人の一枝は宿を出て室なるひこの
まゝをといとあむうとし元を中比のすみよ
あすこうれを又百ら一よるも及ばとく

いつ年齢をせしくくまきをみがくわく
るせいこ家のゐ行よのは絵ゐ後ひろる
ハゐる方まだたきハ七尺ゐ也不を見安め
ゐ分ゐ地をしめて低らす土居をゐ打かゐ
ひをゐまて はきゐ かねをゐも若
ん仁叶ゐ事 ゐくゐ ゐ移ゐもゐの
ゐ地を改ゐ造れ時 ゐくくの頼ゐゐ也
ゐゐる二面ゐ車の力をむくゐる外も
ゐる他の用建ゐすい西野山の奥ゐ沢
を叶くゐるはひん仁に三尺あまりれ初ゐ
ゐまして業ゐゐゐゐゐ南ゐ假ゐ日

くくを作り出ゐる竹のすゐ成ゐ成ゐ
西ゐ前ゐ柳ゐ絵ゐり中ゐは出ゐ仁ゐて塗
ゐ色ゐゐ作ゐ花の書ゐ絵ゐ安ゐ
ゐ筆ゐゐは ゐ筆ゐ作ゐゐ作ゐ出ゐた
ゐゐひゐゐゐゐの床ゐ西面ゐ
竹の石柳ゐかゐて ゐゐき ゐ三尺 今ゐ
ゐ ゐれゐゐ和ゐ美絵 ゐ生要集ゐきゐ
ゐ物ゐいゐゐ ゐ筆ゐ筆ゐの一ゐ
ゐゐいゐゐ ゐゐつき ゐ也 假
の巻ゐゐ ゐくゐゐの ゐ面ゐいゐ ゐ
みゐけひゐ ゐ也ゐゐゐゐゐゐゐゐ

梅まを折しつまをひろつまもしかす
名を外山といふ西のかたに沒を望む谷を
けれと西の嶺(先)にうつりぬ秋会のたよりあきはも
ちすす春の藤波をなつかしくて西方
よりは夏の時鳥をまつ如来をよろこびて
山路をちらす桜の白雪の梢耳よみて
ふる蟬の世をうれひむとせし雪を慕
ふはもりきゆれさる罪障をたつねて
ふ会佛ものゝ法師ものゝさはふみの
るはすこと身つうをこそ願ふる人を
ふる又和(今)はよ安もれ弥陀よ言を世れ

ゝもひとりをれい口業なかるはゆゝしかるす
禁戒を守るゝもるはまゝも(なくて)境界なはまま
いはなはてゝやゝもゝそ江のゝ風ゝ身を
よすゝ羽ゝは器の風はりゝ船をふるて
満潮潮ゝ風情をぬすゝ桂(春)の風ゝを
ふすゝ夕ゝは海陽の江を見徹て源教者
のふれをふるゝ絵無なきい志いく松
のひゝきゝ枝風の楽をたゝく水の音ゝ流泉
乃曲をあやゝる義ゝ見はゝるきれとも人の
耳を悦ゝむとゝもあゝすひとりゝゝ相
泉ゝ澄みはゝゝんをやゝふ計も又華

一の巣の庵に住まし給ふ所の地名
こそ小童に問へば時に其
あるはすを是を尋ねて行
十六羅漢を安置せし
仏を祭る事は古来同じ或は
岩穴をとれ又ぬのこを
すうこの田井より
原らんをいとう
ち上りて遠く
里を相ね来
ろを感むる
而すはを先より
をとて或岩ちまして或石山をおこし
八栗峰の原を
田上川を
さらは
歳を
家
古人
ら
晩の

きのをく別たるまは世をそ紙さる程
をまた或は煙火をあ紀れたりて苞の孫えん入
女とは、たるる紀山ゐるねとふくるの夢
をあそれもるはけても山中の京氣れまつけ
てゆ尽てる事れいたやうく思ひ浮くも
きく俗人のためは見るしも加まる（かるす大
ら此そるよ任和しけふ白地とれるひしを
今すてよあとせを紙を紙の養も面ある
屋とるて好るふ心ふく土居に苞も
ひるものはう事の後よ船を生ハ此山よ鈴
ゆるは山とをなる紀人のかれ給るもあ

まるきるゆまてこを和ゐるめ者ひ書て
生ををれ（うすひくの莫上るゐるひまる
家又いくるくそたくを乃養のこけとけし
て思ふ程せるといふ（とも稚ふす床あり
書屋るを庭あり一身をやとよ不足ふ行むイ
ふいちいさきひをこのむ是よく為をたるる
よてゐも尺さこハ苞旅よ為る分人れ行るく
よゆイよまて也我又かくるる身ををも世を
ま事こハ我ゆすゆ子只ものるを中
くを結れをなしこと次すくる世の人は任
家を俗るるひかれらすを少乃るまは叶元

世代或いは妻子眷属の有るは使うべし或いは親朋
友はたちまち或は君師道及財賓馬牛（牛馬イ）
はなるべくそを作るべし今身はなるもまずは人
はたちまち作るべし必いうべかれいかれは世のうち
世身はあるべきもの（きイ）人もなくたのむべき
やつこもれしたしいりうべきもまた作をや
とし作をすべむれ人の友（とあるイ）者いとめると
たくとも作んとうるべかるべしもし
情をと直るべと知かば毛世代をもて糸行花用（イ）
をなすもせむるは玉玉人の奴をもて者が貴四詩（イ）
なるべるべしべし身顔のあるべ化をもめも

文をもとめみあれるべい（ともすべ用なれをそ
孤をもすべ性紙身を奴婢とするはべしもす
いべ紙多（イ）を奴婢とするべもしもすべ
き事あれば名
かるべたるべすべもあるべねと人を
をもべ人をべ見るべるべ。（イ）べすべ
あるべべき事あれをべ使べあゆむ
者といべとも馬鞍牛車と人を多
すべ玉べ今一身をもて二は用を事を
はやまと是の宗物よりべ親人をかるべもべ。
又身（ん イ）の今べをしべ（ち イ）べべ時べす

めいはのあれ特ハ世ハうつるとも
くすさすものくしとそもんをうこすす
まれ いくよ世をつねよりき幸よ
働くハ是養生成自身 何そいうこと
やすみをこんへを若しぬ人を怨やすハ
又罪業やいく他の力をかりてき衣食の
たくひ又れれ 藤の衣麻はすはう
ます ちをひてをくし野へのは
なふ是はこれ後に命をはく半なり
人よりうをれふ苦を知る情もれし
かてをしうをうなれも 作業

をあはくすあてかやくはたけ家
る人て 対一ふるのはあくす 我
身一ようてむうと 命はたく
はる牛なり 大こ世をのれ身をて
しよりうくもなくをれも れ 命
も天運よはるをます いとすす身
をは海をるすてなすまくと
せ次 一朝はたのひくねの枕はより
きハやもみハ杉の義景よ弱れ
をて後三界をくん一はあもん君やをら
らハ 牧馬七ようなを宮殿 楊国

中納言、今さしき侍ら一方の庵ふは
ふをあいすをのはうみやる山でパ
乞食となれる者をとはといもかはそ
家よ所ふ世ふ他の信濃よ着する者をわ
きれふ、をしん人はいつるこをを殺うをを魚
と魚との多野をみよ魚ふ水よあふをを
あるされをこををいうをしむ魚ふ林を
ねうよるまわるれをこんをもちす用器
の義味を又ひろこを侍すをを侍ちと
ふむ柿一枝の月新るみて鐘第山の
ほよを魚よ三度の闇よ白むむ時ほのわ

さをかたむとをる佛の人を教たまつを
もむきふ者よふれて祝ふふれを今をの
庵を乗をすをを種をふ用意よ著するを
障ふるをしいふ用なき楽絵のへてむ
ぬ。。。。。ひをふ世をるをむをふるを暁世を
りをわるひはまをみりをふるをといを
ていを世をのれて心林よ用をるふ今を
ふさ染て道をひをむ為ふをれを故
楽ふ刻まふ世をよををを侍家ふ多
洋名居士の法をけをを世をいをも主をり
とをふ中はまを用梨繁特を彩よたも及ふす

為是貪嗔の報のゝ煩悩をゝ悔文
毒心の為てくるゝ世をゝ時ん為に
ふるゝ事ゝ　ゝゝ根をやゝして不往
の念佛　五之反をゝてやゝぬ　はゝ建暦
二ゝ七　海ゝの晦日　藥門蓮亂外山の菴
ゝゝゝゝをゝゝれす
月ゝけゝへ山の端ゝ　はゝゝかゝま
ゝゝぬひゝうゝをみるゝもゝゝ

扶桑拾葉集巻第十終

拾葉集卷第十一

目録

千人百首歌合勅判序　後鳥羽天皇
遠鴻御歌合序　同
新古今和歌集跋　同
鴨長明御文　同
頭注齋動詞　藤原定家
文河奇合詞　同
齋院四十五番歌合文　同

長綱百首乃ゝ[illegible]辭　同

和歌初心抄序　同

人のもとへ[illegible]文　越後禪尼

東関紀行　源親行

斧柯序　源通光

七十番歌合跋　藤原光俊

弘長歌合序　藤原為家

寶治歌合跋　同

古今著聞集跋　橘成季

挟葉拾葉集巻第十一

参議従三位兼行右近衛權中將源朝臣光圓編集

千五百番歌合勅判序

後鳥羽天皇

とかくてもてまれる百番とかひ合せ
たる事合とし[illegible]人を判し中もそうち二巻
[illegible]
とまとと[illegible]勝劣をあらはす[illegible]
[illegible]
次左右の下に[illegible]
[illegible]

所にて詠ぜしこと二十一字にはべりて、今
はかみとなれる時分はべりしを、ものに
書きなり。

遠遇神祇会序

同

をりをり神祇にまゐすれども道よりほかに
まゐれる者を撰びて雑波のよりかの
しを分ちもちゐる海のあまりにあれば
を定しむ死の期は昔もこれ
世一字の言とそなへいつくも楽

乃門も今二百九十九乃はるかの元四年
社の宮の備河の乃流をくむ事うく和
歌の浦をしたがひて十年あまり六年
ばかりあるにもかかはらず此道をもてあそ
ぶ新古今の撰者也八十餘乃命乃長き
ものあるべし野乃うぐいすのなきそめ
しかれを聞くに今一度思ふ乃
ことにあるひとの乃をもてあそ
ぶむと思ふ事ばかりの玉章
乃をもりはべりしとぞ

十部の歌を選びあつめて書けるを、
人のすいきをいとをしみて、
はなはだ古儀のそこなはれぬべきを
なげきて、其人の中にすぐれたる
てちんぎ青輝をかけて
仇人の障をのぞんで人をそそ
ぐを人ぞうえ、此歌墨者をすぐ家
隆卿の面目と通ずるもまた
きこえあるべし、その人の
年を伸て、ひとりの是を伸て人足柿
八代集の歌をむしり
はべるばかりの

おもはもあるべし、行わざるかの
すいくんやちきよの人々の歌の中に
も、十餘年のあひだ一首も用及さ
ぜ、そもそも同歌をよみ、むをもえとこ
ろかくのごとき乃ち六十の
老耄、といふ事をもれ日をあらためて
みゆるすうをおろく註
しはべる

新古今和歌集跋　同

今此新古今集を、元久年以前の和奇

所乃業う作くあるを今れ命をあり夫
しらく其人〳〵方はうゝえゝひ宣命をも
さ乃ゝ家くみもくあゝひ物ゝ事みそ
ちあゝをゝ乃玉緒をさきをれたと文あゝ
む〳〵きゝいあゝ保ゝ也新ゝ是をゝゝ見ゝ
乃風情あゝれもあゝをゝ保ゝるゝ事ゝる
くみよゝ人をゝきいゝゝれも於ゝゝて
集をゝ所乃奇あゝちゝゝ也ねゝ多ゝゝ保を
ゝ奇ゝゝゝいゝあゝゝゝあゝ沼をゝれ
方ゝゝゝゝ今をゝれ命ゝ事ゝ之十首ゝあま
詞をゝ遺ゝあゝる思ひ治ゝゝゝゝいゝそ

う集乃やゝれをゝうゝ人をゝきれゝゝよゝ玉を
ゝてゝ風やゝゝゝゝ保ゝゝ黄ゝ於ゝ人ゝ事ゝ
きゝゝわきゝゝを風ゝゝれゝきいゝゝ乃門ゝゝゝ
いゝ風いゝゝゝゝ杜乃於あゝゝゝ文をゝゝ
し昔より集を物ゝゝゝゝ中ゝゝ保ゝゝ物も
あゝゝれゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
いゝゝも於改太改太ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

寸巻くの方世中かうねてゑ分むすちをえ
ひてる巻をまうちまれよりの集をもり
（きよいあるゑ経もゑ天下あるゑみっるいす
るれるゑ（一）万下乃ゑれ格乃昔と関係、
や（ゑ乃ゑもの為もをまん学ゑ巻をゆうれ
宮下ゑ初ゑまりゑ（て）ゑれるれる世てゑ乃ゑ
ゆゑや

勝ゑ乃清姫ゑ

同

ゑれい法花経ゑみら分られ因いるせく生死
をはいるたもい南ゑるなるゑ巻ゑ一ゑ百

ゑ下一なれ出乃よのまく命り加（られて
まえんゑもなるゑ乃ゑもるこ世れるる
さるるゑんるもあるんすんゑ百よ一わる
しゑむゑれるゑを思むゑ三ゑにゑる
ちるゑ思（ゑれいわる為ゑあるせんん
くるゑ拾あくるゑに乃ゑしてるゑれ
このるれいせんゑる世下為にるまるせん
ゑんもなるゑるて（いよ）くあくゑ為ゑあく
いるむするなるゑ乃ゑの為ゑれたるる
乃ゑるもあるむよわるゑ乃ゑれゑ為
経ゑんゑ又三ゑ神事仏事ゑあくゑをゑれる

[illegible]

[illegible]

[illegible]

かやうにえんをもとめ大寺の大仏くや
しきにこもりひさうしに一日に一さい経くや
くすりはんの法花経こゝのくさくいたし
も身よりへくもゆるもんをもとしをえん
やうしをもとめてそこひ一えんまえん
てなるもゆるやうをむすかるまゝをもかう
白いけのさうをいゆるくなるをもとれも
わるもとしてあるものゝ次

類註密勘跋

藤原定家

此之抄の注をくるほうまゝ

もやうをもとうるんいえんをあしなみ
このむをひるくしをもとれうをかさ
思ふ事をも一紙にかきのふをしとをた
ひとりゆるぬ月日のうへにれをかを
ゆるをもとおりをゆるをかんをあは
くをなるをもとれをうをくい
まをもとをあをもをまをあをもの
ゆ和尚評定の元分会判胡ふドをも
し事ひとくしゆるこのむをもとを
て家ゆをぬるをもとをしはゆるをうかを
人をもとをゆるをもとれる事い奥

義集とうつおくいりまちあまうと業
しらの流りもちるうすれうこゆあ
ひ作りもいそちくかちすゆ作り所り
かさのつくれしも朝もいとちくちろ
みを作をうれとはあくゆあをもれ夏雪
又し事いさちうあ人ことちをかさいろ
うき世を作ぬ家を流るく氏あ方りか
きちす又いくつも作るんいそちよもち
祢をこをちうもかをこれはさ人人の
おりーあちをんいうきつをねりふ長作
へちうわ自花百有ゆるひとうね人うも

さけちうまんいとかるちいあ作
泊し為もあ泊ものかうは出れ作ま
いそちつをいとつ先事も縁り泊ふ
られむ外くを作ちを作くいを作り
ぬ家機縁もあさかすうを作しく
ふも氏を勤学博覚られより縁あれか
ふいくを作るんまちとの述物よを作
う又ちくを作いくをうを中ちかる
ちうも此集の流と三代受つを紙ちる人
ありをうをもて作を作ちられ作
へうを此かの和を年を後流とのや

柳原淡路守貴之自筆ゆゑ中　古今伝
授　教長卿之文法補闕長各中うつ家
ちうつ　りうと宰相い真名假名乃字を
と一字ゆゑ人すそのほうへ字をしを
叩れ伝うこと　こいめ　きうい真名假名ゆゑ假
名之字仮此なり　南村見不審表多歟
信用　叩うこ　ふ　文年　者念者の
流を受　ちうこ　ふ　ゆゑ乃流とうしふ
ゆゑ　ゆゑ　ゆゑ　要をとりく　秘家ゆ流と
と中　ゆれ　をむ　ゆ　ゆゑ伝りよ
を集あゆ人法補闕長の注古今と中ゆ

みと　ゆを伝　法乃外ゆ　いうふうつさ
もうりみ伝　もうのうゆゆ　文法秘ゆを
中ゆ　ゆゆ人伝　伝ゆ　ゆゆ
いふ伝　ゆ事よう　中よう　いつれを　ゆやまり
うん　ゆ　つうゆ　伝し

宮河歌合注

同

伊勢の宮河の歌合　猶尋注　付　きよ伝
し事ゆ　ゆくし　ゆ　二年あまり　ゆもなりぬ
ゆうゆう　ゆ宮　ゆ字　ゆ乃　ゆうみをゆ
事を　ゆれ　ゆて　ゆ家よ　伝ゆうの　ゆよあゆ

久みん事とつむのふわすゑ月ふみを
すゑまつ代ゆゑ母をたづねまゐらせ給ふ
とおもひもよらぬ事なつゝ難波津の海を
ひしゆゑ事ふ曙を八重はれの春くれ
みゆるつゆをもろこしはゆふ色いく
もゝ重れ中とゐ中詩人すゑ乃文神
之度あつたまりふをもれも海ゝや面まと
ことの系の変まれふんをそゝい
つまをあり与といひいれるを名
使とそひてゝ海ゝ水流をまるか
ひゝいゝ作まを海ゝてしれ（ゝまもあ

ひ時よりゝ所よつまゝ姫ゝ姫みほ海ゝ
ゝひゝてゝあゝ（ゝ）ゝ所ゝ代ゝ時歌
合ハ わゝ流ひて合せく書ふれたるふ
あゝ命れ海れ文法ゝりゆゝるゝの墓を
到ゝひゝなゝひゆ海ゝ通海ゝ不を
ゝ海ゝひあゝ樂ゝたゝ春ゝられゝく
行ゝふ事代心遊ゝ一寺のゝゝ高ゝて竟
ゝゝも及ゝゝ言ゝゝゝゝゝ代
ゝれゝ あゝれゝ海ゝれゝ名ゝの草の
みゝゝ羽ふゝれゝゝゝゝふゝん
ゝゝ代ゝ海ゝゝゝゝゝゝれゝ

波路の声はたえまなく
ひくらしいつかねぶりもさめぬらん
孫をもとりの音はうとくなりぬる
うらの家はいかにかすまん
けれども世一乃あるはけしみゆもあ
ぶつ佛乃ちから情りをもんあまり
ふかくを源をむすびとしたまふ
みをたいやすき法をとなむとと
ふをたいやすき法をとなむとと
信義五乃ふみ
の御りをもとらんはとをもとらんは乃

月のはるよりふかく陸沈のうきをつよく
かなしみ酒盃のをもむくるの下は塵のと
をもとをかるの海乃をもはるかなる
四本乃うつをもとあるとあるみく
法華乃年はもりたるとあるとあるみく
うつをもとおりの八十瀬の波はをもち
をもとをかるの文河の流れをもと
まりの信心のをもとをもとあるはまも
仏をもとの今をもとをもとをもとの
なむしをもとの仏をもとをもとの
まりの世つをもとをもとをもとの

君いまつらきせぬ夢とうちぬるも
思ひわびつるしのぶの草の秋

西行

春秋ときみかもいてぶとれぬ
月と花とにはかるとそとん

寂蓮法師文

同

庚申よ葉しかわくさまぬもるるそ紅
ひかりもいろいろ物ぬそいの中よあるる古一ふ紅
くの寄よ面せそそれ山きやまんい紅文をぬ
てゆみわかそいぬをいいいんかて接ちてい

くあるも品いろいろあまりの寄れいるる、
ちるるあみてかるるも松ちるる秀白して
かもそれいれいるる松てしく多ちるみ
ちるるるる為之首月松ちるしいるるい
ふまれるかるる寄ちいて作ち松ちる
ゆしくいゆ過られた藤つ指ち藤指の寄よ
みれもそていれるんも得いいるみちる
かるいいんもるるてやる多ち毛寄と
まれ松ちる出付て作ちる松ちる白
よかるるやるるの月松ちるいるんて
やるあるかるるまるものいるる

[illegible]
くとあるこゝろ
[illegible]
[illegible]
わらはに戒力のやうに
そいひ[illegible]
のみうるをかれて
ねてゝこゝろいきやうの
[illegible]
いうまく秘密
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
作へうこゝろいきふまれ
くゝとて寄よりてとは
ていはゝてひんしへて
[illegible]
[illegible]
[illegible]

法書ひ面〜ひてもくわさ面〜ひまし
ふるとくらふ明るまてやかうらふる
くええ脈ら稜とみて庚申も清綱〜行
つ日ひまえまこと〜ふくえ祈〜
や清明〜ひきえんしるやううく
いつき面〜とひ清四清ひきるて加藤政廣の
正等をいみ稜ら〜ふいきるてまつ
りうやうええひう南時まんとそれひ世
間とえ人放放まいうあふらん面〜ふひふう
せたるく報意〜ひ〜ひふるれ
〜きまもうすれんきう清戒ひう

つきひまる明ひう放まん新やんみうえ
定ひのやうひ日のみえうひうまま未代な
ひくみうきまるひう不思議ひいて九心も
初も及ひひいるかくとれとして中下い
平ひ面〜ふひうそわうれ右南
二郎ひやうひらそらまとつきてもひ右
られて清すうう入道うみれたろく
まるかう〜ひふらのもとも右なえ
ひよ稜勇ひふくわひうまひ稜〜ひの
うれまうもとくくううをひやうれひ
面〜あう面〜くうれうれひうもそひう

但去三月より江戸表へ
出て勤番いたし居申候
間へ
長綱百首九帖
辞
同
わたくし御表より
ゆかぬ世等と
ゆるしこれ
なく候ハ
ゆめ〳〵
作ハ
ハ
ハ
御歌
美尋常
くれたる
四季と
ハ
ハ
ハ

を過代のことを思ふに優劣は
しらるる事の出来ぬ也。山海は
の作られべき事なりて、伊出居（武）大輔
左衛門尉藤原朝臣
されたる和歌大夫馬允
あの里、藤戸よりいそぎ
屋敷を修造
いま
及ばなり
をとらず
うんとわかりの
歌は
歌は
歌は

柳和歌を天地記紀神代の
初のものとあるべし異説をもんを和歌
男女夫婦の事をもとより四季野人
うたの山の方性格鳥獣言語まで
をみな分りの事なれいたま
くの人と性とをもあく欲性情を称も
へされ角きは異説富本石よ吳竹歌文字
き月日を紙うの歌の命を問ものむ
とく羅代つうたるものをて一期を
者し它のをうもいつうう行ひ
ちもんのうて是賢もをうの宮をり

ゑむ むうくなれうう相うまへくまくまたの
やうう なりひ給をもうの情のんう
何の学ひをも点をつをうへ記事うや
人けりへつうをれ文

越部禅尼

西ひいをうれひうの山ん さあうれて集
をの角うてひ事四へもくうれしまう
ひみいていをの行うう事と えひつ分るう
きあ あ一け命も三ひまてみいめう奉
よとりてふあえりの方よめてたくいけう
と えひさて世御撰集のむとうふたあり

のまくらをとりて調代国せうさう
まいりて後ほうの目のをまひいてと
まてたる中一とうに拾遺ひへそのゆへを三
代集の中をうつくしくもわうむうもそく
取てうまひて調ねとよる中よさうの海
しうれんをきいぬそのちは拾
遺をうれ欲わまりうもうきてひうう世
をれは撰ものらけ　をしく
い金葉集詞記さやうくあるやうまひ千
載おらし　はまり海うて勅撰うはいて
たくい序ひもひへと何をらんたやうま

元亨もいうそのひそからうんともええ
いつすい新古今又玉の花秋の紅葉をひと
ほうこれまをの風他乃秋の月梁苑は雪
ま和とうやうこれらしていをつく
なう何つひまをあつくしけうあ白
く京極殿ののんを序ひとん河ぬうこあ海不
やうふみれうあといやうこれ新勅撰を
ひうれ中ひすい中納言入道殿のぬ人の
していうそうてみてなはひつくいさも
おもそひうそうあてたくいあ有あらは一人も
いう撰れうの海うひ去年とをうを院をう

是御製とて以下同もうれたるいろこ
そしいしう幸しうしらるるにつき恐あれ
ありたいしうさしひとおかしかりしかりし墨入道
殿のうりかさ御法幸七十そとうわゆえ
いうしうしいうしうとうちれかえひき見出
皇太后宮大夫後鳥羽の孫にて定家卿
みまてえりいうさ御名幸のちてたたい次
第出国へらるてさうに後鳥羽院を
らるれ人のはうしうまてうしうに
国へうしうさ有れたうしうはけもなくて
ありうしてあるまう一所なるうにぬ方なった

一もうしぬ古へもたはまた源うしうし
きぬ房のはう神うしうしうしうしうし衣きを
うし蓑のきてまて贄ひしうみのかく
ますてうしうしれかうしうしうし蓑けうしう
きれうまてあるうしてしうしうしうしれ
と南殿のさうしうしうしうしうしうし
うしいて歌も上意脳しうしうしうも
ふうしうしうしうしうふうしうしうしうし
い年より胡のうしけ此白うしうし父よいすし
ぬてのうしうまもて奇特魂脳をかりますとやん
つうしうしうしうしうしうしうしうし和撰

命いきながらへて天慶元
年とかや撰の後序のいはゆる
ものいひを序まとめて紀事
ともいひてはべりけるを
左近門院のはるかすえ
ばかりもかの御所
のおもかげをしたひ
ものがたりをしけ
てやまさりはべ
てえたる年のまもり
ものがたりなどもしるし
よれるはまことに人もいまや

形代のはらへはことなれども世俗
あくまでよろこばしかるべきを
人をなげかせてもかりてもとりあつめ
ものいひなどもかたらひ
しかるべきもかたらひ
くえたる年もかたらひつ
してよみとりあつめたる
煙りまさりまさる命ながら
いまをみまつる
御法師のはじめの
しるし

雲のたえまもしらぬ海原にこぎ出でぬ
あのむこうの遠島やけ
秋風にみさきまわりぬるかな
はなはだ思ふこと思ふこと
あるべきかいまいまいま

よあり個なり、こゝに思ひ知る仁治
三年の秋八月十日あまりの比、鎌倉出で東
へ（鄙）くゝ下りまゝ、ねたのそらなる
ものゝ、書くとゝ旅なれども、雲井を
はなれ、雲とゝ行く道の程、ものゝ
むつかしく十日ばかりの日数と、
ゆくゝ海金ゝ、ちゝ長
月、或は山、鏡野、峯の雲、或は海
水流の面なる、柳よりいとゝ見まほしく
ん、とゝ思ひしかどゝ、立ち出でゝ人も
あるはとのつゝ後の形見もなれば、
なり、東山の色なれば、仮家に出でゝ、お汲は実

折ふるゝ小弱川、ゝ月の影を
きゝなれども、秋ふるゝ雨、ぬれ
の月、秋の夜のゝ、
遂に移殘月は、
あらむ、むし蟬丸といひし世捨人、
ゝ屋の庵を結ひ、常に琵琶をゝ
ん、を、面し、大和歌を、
の風、ゝ、ものゝ、ある人の
蟬丸を延喜帝の
式関のあるゝ、
いかゝ、の、屋の庵のあるまで

[illegible]

東三条院石山より帰て還御ありもとより実の
信仰をもはせ給ふてよりはせ給ひ事
あもしまひ[illegible]の実形よきの紙[illegible]
新そうの[illegible]とゝゆゝしていうもの御
[illegible]のうちふうと[illegible]ふんかきれ関山[illegible]
めまえ[illegible]打出の浜霊津の[illegible]とゝけともい
まゝ板のうちうれてゝ[illegible]もんうちまに着天
新そ里の[illegible]大和西[illegible]の[illegible]より近江の
志賀の新[illegible]新[illegible]ゝ大はの宮とつくれ
もゝゝ[illegible]ゆゝ[illegible]ふゝ[illegible]里[illegible]の[illegible]

[illegible]

[illegible]乃大津[illegible]乃文[illegible]
[illegible]れ[illegible]乃[illegible]
[illegible]の[illegible]なりゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]

の東西南北をして稜威いつゝ神の御とき
ちをし

あしがきちせ野辺なるあさぎふやはい
きもとふらるるあるしめなる年
志の原と云所を西東へ廿町ばかり紀堤あ
り里人侍るを先南北池のほとり
をゝゝゝわたれむらひの河みとりぬきれ
のむらと波の文もひとつなり南山の影を
うつしさゝなを青くして流潺々河清有
りのちひゝあしうをとわひらゝ浮
中よりと略のうちひまゝゝちるはち

ゝのてをうるやゝうり船をきり旅人この
宿よりうとまりけるゝ今ゝ年をくるゝひは
ゝ多くして歌詠も四つゝ切なるゝ
ゝゝうり桜世のなりひ花なるの河の風風
ふゝ行ゝきりゝるとはわ桜
切人をとまりぬ里とおもまる
あれのゝ四ゝるのうはゝのゝ
後の宿ゝいゝりぬを首なれ報の寄合
切ゝ玉祇いゝひゝくゝゝゝ分れ井ゝ後山
いさ立まりてみゝゆむ年ゝぬるの左
やゝゝゝゝいつ祇山の年ゝゝゝゝて

宿とるこゝろかゝ[illegible]
[illegible]
[illegible]

まゝすさまじうあるに、実方朝臣にこむたちうせ
ぬる。除想いまゝつきはてゝなれる侍従の
後人多くこゝにすみわびて班婕妤の
団扇の扇 秋風よりはなれぬ物思ふ
をれば道のまゝにこゝにん事を物うく
思ひいそぐれば坂西行の道の色ぞ侍る
みちのくに柳もこゝにたちとまる
つれなくもあるこゝの木陰
みちのくに実方朝臣ふるさと
こゝやとまりの旅人なれ
かしこき所にこゝにあるべきの関山みち

こゝに谷川音の高きより高き山風雲乃梢
よりはるかにこゝにあるべし四郎と云ふ者の下道
をこゝにこゝにこゝに

[illegible]里の秋は古人はなを[illegible]
やらわる旅のあはれいとをしくはかゆれ
た月の新き[illegible]流と出る三日樽
[illegible]行き帝て一首[illegible]秋之
の月よりも[illegible]を情に先逢一千
里の[illegible]
[illegible]の[illegible]書

[illegible]秋のゆくへはあはれ
[illegible]ねの月[illegible]
加やしの東帝の[illegible]人
[illegible]里も[illegible]

[illegible]帝の[illegible]
[illegible]のたゆ毎[illegible]
[illegible]みみ[illegible]人[illegible]
[illegible]

[illegible]を[illegible]市人の
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

中ごろ、孫くらゐの雅楽の物しり、
物ずきなる者、世の中のやうを見
きくにつけて、
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ほとゝぎすなのみ聞わたるあるをれば世のつねならぬ
春の家と出けるも彼の三ヶ月まゝ見かゝし
人は食しをるゝ人は紙つゝみ紙とも
別まをかゝ一日ものんをもとめて
涙のたゝ出もしきりん方ゝ切の
ふるさとをもとめて行の
いゝくらあるゝ
おむの川原は行出ますをこうる
して山かゝ蕎麦の一本外里をみ
まをしたんしらして蕎麦
をもて月の秋は更いうをんと成ゝれ

なる蔵まる行京の中より鎌倉端分出る道
あるゝ行末をまひのつゝ古武蔵乃国可
道のたゝまれ岩より橋をれし郷をい
まゝ作と云の山まゝ行ゝ
たのゝ人とうれをもの石
公奥い国の武士の奥也成士のこゝを越と
云をとつゝゝ者のかれゝ紙作しは
ひゝの事業のゝ紙をゝ
ゝ河つゝ人まゝ
いゝまゝゝのゝ成
生とゝゝ童化罪とゝ国民

幕府まつりごとの政治は武士の手に
帰したれども政事の政務をつかさどる
ひとびとは天皇を中心として
しもべ公家の実政任国の郡司の
民を多くしたがえ農業の振興に
あれわたりくの年れい風習の移りかわりと
多数の法令もうまれたが
くらしあがり政治の用をはたす公家の役所
廷臣人を育てる教育機関の役所儒学
の学問を教授する博士も
柳の木もうえられ武士の学問を
正の民はこれをゆるめて行末の為
とするのみ事をおこないたいとて
はなはだ

人形をのこしぬしるしあとの柳もう
かげをのこしけを人やたのまむ

豊河と云宿の前を通るとある者は三河守
こゝはみちをはむかうもよるるかうも
しらぬ所なれども俳諧ふる津の今道と云
こゝ張人はかりの問いまは宿を人
の宿をとる人の外はなしうつ原をとゝなる
みちをまもるあるひは

きの事といひかゝいうゆへかんと云
歌の詞に昔をたゞつきる里人も今
文なくれんこそ故伏見の里のねをあれ
まくたしくえんゆへ

ひかつふいる老河のうそ彼岸を
いうるれんこそのうそのきも
参河遠江の境なる高師の山と云ゆへ山
中を云へかゝる所に谷河のかゝれ居る岩風
入波こゝしくゆへ境川と云
思ひ弱うちそ波谷川も
ちをたしの山の事きも

橋姫と云不よ沈つきぬれそこそこそ
ひあるまくいとんをそこ南ゝ海の海の水
漁舟波よゝふ小舟波水を人家岸を
らるれそ高野ゝ例海をくこゝ松を
いくゝ生ひくき所をまもむ松の例
き波の名何をと学ふこ沈人をうを
傷しちとまるたくひ美をたまさ波とい事
かし みちくこゝ橋と漁名と名所
みるき若木より例を所を所いたく
ちをもんをそし
明とまう旅ねいけをうねと

[illegible]の梅[illegible]
[illegible]世[illegible]は一[illegible]とまもる[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]月の新[illegible]
[illegible]みえ[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

なるを世のうつるなり道のをりさすらひや
宮の河のながれも世界の
人はんさくらゐとそうれ
をこの乃宮府いはゐ
つゝ一日二日そまりまれとあり乃
小舟り拝ひて浦の
波ふ高そうを湖の岡を例詳をく
南は板浦の波紋と湿
んをいさよしむ名
宿をそ松ゆ
をを花もいををら波

とはおもふ
波の音を松はもいはの浦
さはりのはをの名波をそ
こゝのまをと学ゆ祈ふ
をすゝそいをかおりひつをを
ゆふ風をけをそ多はむ今
をのまをおる神乃をる
小秋の中山い古今集今ようをりぬを
とをまれ秋ふ名者の名をと学をを
しれをもをるいをんをそし小い海山をて
松秋尾ををしく南を神ををて秋の花亭

[illegible]谷も巌のうるおひ[illegible]
ちりて庵のもるあるいとのうるおひ
あるべしし

[illegible]ふねの様とそ[illegible]
[illegible]あるとの中心
此山紙とも[illegible]て作る[illegible]菊川[illegible]
[illegible]有り[illegible]ふし[illegible]永久三年の[illegible]中御
門中納言家行と[illegible]人[illegible]罪ありて東へ
下されける此[illegible]か青ふ南陽
縣の菊水下流を汲み齢をのべ今ハ東海
道の菊川西岸[illegible]命をたもつ

ある家の[illegible]れ[illegible]
いと[illegible]
て[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
あるふちとなれるいひきん
菊川紙[illegible]一村の里
[illegible]
ふすとうちのあれやとする奥より大井川

式尺渡したれば、をとこ房を河原の中より
一筋なる流とうれば、川淵もこうへ
ちらひしる桜なれば、をとこ房のといふ物をとる
ふる中にとりこむよりも、絵画の物
ろくはゆきて、枝紅葉こうれなれもむ
龍田川、ふる桜、志ぐるやとるる
日ぐらの藤のあれを、ちりぬ川
をとこ房の家にうれ色うれ
をとこ房の家にうれ、昌都のいまはく桜
ちるうれとうる山の桜は立ちてれいな
ふるれ物ふる、滝流を持よりうれ

て、藤のまよりなる袖衣うれ枝とさむくれ
ふる。

ふれてふるもれ山むしのもと昌アふる
桜のあるよりよりうれ物
宇津の山桜ふれいつ、つうえくいもをうる
むうれ物ふれ枝業平うれ来て
うれくしきん桜いつ、つなるむと見行不
とよ道のうれれをとて命桜うれを
元縁の世をて人あるうれ桜をを
をあるうれれふれ人くうるうる
をのの桜桜うれ桜の俤ふを盆像の河原遊

仏とうあるまうこ清水ほうなんなるけも
ものよりはるかにあるあるなり春ムの姿の代
ゐこまけもとうあるかもし代西のたるもとはるも
世ムたるれきう道ムもはるねうへ手男塔さ
ふるるきれた地を観ものるみんるるく佛
を会ずるて性をのうし雖行苦行乃この
道ともよるきうといくともムのゆ行脳れる
八星ありて勤しるれまるれるし有ふ
人のをくまつるこ代ムる唐代ひて何ま
るれ年月代をるるうる代ちるるむし教奇
う有湯のまれ入るく行こまる乃藤代中も

許曲ゥ類水乃月まみしとのはうう一
瓢乃篇をうるりといへも代唐のあるも
月弥文蟬ふそしれ唐ゥもええ沢紫野
るるなくはるゆまるこもあひまえるこ海ゆり
為代弧ムの花は唐りやるて ムる代清城
のまれ和ま海せるいるねもるるみえる
中るあるれまんふくし
世といるんの地やふるの海
るれムを乃海ねなるても
代唐のあるり栄行をうる沢姉と云有りい
ありるる大ずれ年拡築乃年和ゆ中もれも

[illegible]書付申す事
[illegible]
[illegible]
[illegible]

配所へ送ひ申候ひくうれ志戸と云所まて
うるはせ申候—きり江ゆ行程あり海辺の体
ねうこなみまてをもよりや君背の西風強て
と吹らむのうふなるうふをひとよりあるも
おとうをもまうるにはまりて西のはて
事ハ中ふをよろねとをさ—わうてみる表
玉鉾よ月中

わうれふを申ようれ玉鉾乃
みちのへ中を尋ぬとうを申
信見ヶ浦をうらうへ須賀やをうつて沖乃石
むら〳〵塩干にあ〳〵いれて波よ唱ひ松乃塩
屋とうら〳〵風よさうりれ〳〵海をれ引うり
東海の景ひ出とうもをあるはへさうりなり
首楽崖天皇の御時將門と云者東あ〳〵係
及ひこ〳〵をうりうり是と平をん平あるよ武蔵ヶ
丸文とつくり〳〵きれ武蔵ハいうりくそもり
けりうり信濃源義と云ふ人國中つるともひく
軍隠と云友まそ引けるう演舟乃火は新
をくて浪を焼澤海の松乃葉いよりひ心
をとをいよ夜乃船を泊をれを國ハ涙を
なうりうりと吹るもあるれなり
信濃をう写ふをうりゆ〳〵

ふとりかとをくらん
式部を明ぬれば奥津と云浦なり海
士四人をあまとよぶ中古は海
人の家も多くうくるなりやうに
なりて所もとくいつきたり
清見潟さ波のよるにちかき松
けぶりかすかに絶ぬれば
ふじのよまとくむるふなりにて
家の松にかまるもの
家より出ぬくさう湯と云なるあり
そこに西行の歌
打ちかるる波をひまなくいそぐ
むみちひとすじかすかに絶
の中までもけてもいさまし
しかと打ぬれつゝ
沖津風けさあらの浜ひ
なるらけ衣ぬるゝそ
神原と云宿の前をおとるれ
をそ行つゝとて
みよ田と出たるをそれ
むりろよつゝもそるをの
所なり人のもとをけ
打ちるる波をひまなくいそぐ
むみちひとすじかすかに絶
の中までもけてもいさまし
しかと打ぬれつゝ
沖津風けさあらの浜ひ
なるらけ衣ぬるゝそ
神原と云宿の前をおとるれ
をそ行つゝとて
みよ田と出たるをそれ
むりろよつゝもそるをの
所なり人のもとをけ

らん昔香爐峯の雪はいかがはべるらんとおぼせば
ありしかの富士の山のありさまをあきらかに見たまふ
ばかりの雪の山のありさまとうけたまはりしかど
なほさゆる夜の月をいとあはれにながめたまふ
なほ見もあかずなんすべからずゆゑ

ほのぼのと明けぬれどなほ明けやらぬ
そらぬの雪はいかがはべるらん

四月廿四日ふるさと富士見られ高根をたづね
河ぐちを見るにいまだ雪深し
あしがりをしてあるべきかの山
ちもとにてうけたまはる貞観十七年の雪は

白衣の美女二人ありけり山の麓よりのぼり給ひ
都良香ら富士の記をかきていはく
ふるとは地の形なり風ふきをとこの神ありてみれ
ばなり
浮雲ら原はいはほをもはらうみ出
ちまち富士嶽をなす
沼あり地形ひろがりて山のみとなる
波ぶくに雲もなびくに芦うちふく舟
形もひとしかるべし
ちまたにあるゆゑにさまざまの
南海の神なりとぞみたまふ

雲の波煙は波いと姫うきなりうかをもまる
孤猪の眠り唐うるを帆乃を
よつてなれうの心は方格の脚をいつ
老色と黒くよんかそ原の住屋乃煙
黒くうたうて海風松の梢りむせ
原黄ふ海のよるひく蓬葉の三の島の
くくうかをうるを海猪とうん矢
さりと芋おもをの住仙のをみう
りやあくんいく松ゆくり尼
彩ひく浜の入えりあの根
をつもをを海猪うく

松ゆくり山原よつて海の松原といふ所あり
海の波をうく松るうをもわりてみを
の陸さいりあし沖先あをも沙遠ひて水
はるのうをやうを波の様の松下双峯
寺一葉の舟は中百里舟とつれふ波を
色もうをを脚をいつふを西さうう
みををを原の松は色をゆく
見をやを つを波のうを
車返しと云里あり或家をやうりたれ
細つをるいをむ紙ををすうを板
のやとうわうをを座のを越を美を

こゝ[illegible]ば縁我人の取まの旅れも四く
やあまきむと[illegible]

[illegible]

いとふありうや　神[illegible]　[illegible]

伊豆の国府よりうぬれて三島の社のこゝの
[illegible]すると　杉の[illegible]
の[illegible]も神[illegible]　伊社い伊豆の国
三島大明神とゝ[illegible]　[illegible]
入道伊与守實綱[illegible]
[illegible]　[illegible]
て　杉[illegible]

ら人神のいろ[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]あ[illegible]神[illegible]
[illegible]あ[illegible]道なれ[illegible]
[illegible]　芦根の[illegible]
[illegible]
[illegible]　芦根の湖と[illegible]
[illegible]
[illegible]　柴殿の[illegible]
[illegible]唐家講[illegible]　[illegible]

はるのそめれば、汐塘の水ぬるもいとつ
しうれしき仮なれども、うき身の汐乗
こそ、さき浦なるべきいのりに、法施をつ
かまつる

今宵はかはしうれし芦の海の
ぬるきめぐりに神よ思せ

式山もこゝにありて湯をとゝ云所とまもられ
ぬ。さ山はかりこゝに折ふして、石ゐみを
こゝ回り、黒風の波をくむ。帽子房
のるはこゝふもすき者も、故源氏物語
はなをよみこゝの儀のまもれをいとふ

はいよいよ行くあるこれあり。
こゝれなるぬ多はいなることあるこの
夢後ゆこゝ陸の儀の事
式宿山行現をこゝ陸金をつく日の夕けこゝ
俄にありてみこゝもれあるはやいはなる
のこゝめはは大城江海こゝうあるこゝ
ゆこゝ雨こゝ尺こゝむこゝまるこゝ折こゝ
こゝいとこゝるこゝこゝ書こゝ分はこゝ下こゝ
ぬれこゝなふこゝのいこゝとこゝや云所こゝ仏やこゝ乃
俄こゝ居こゝこゝこゝこゝこゝこゝ前こゝ
むこゝいこゝ門こゝ行人西馬こゝれのこゝに

ゆきちかひ、くちかい山ちかくて、宮ゐのそむ、麻の高宮社、ものうきのうへいそらの旅宿れ、都をとおもひきまかりて、ものうきもうくしつゝわらんらくしたれそよつまくも

なくさむやくくに和歌浦のつき潟之浦のこゝろきをとりの浦くとゝ鳴くみれば海士の釣舟

とのもりてこしらくま片のくりつさ

有くゝ水もとゝ波出ぬ

さゝ川さゝ川ゝ之の浦くも

ひくつるわの神はたらく舟

玉ゐ之三浦ゐ波まくり

出ぬる月のゝ宮ゐやけさ

柿蔭舎はくくゝ水ゐ出ぬ板右大将家と申え

波よ水の尾ゝ御門の九乃世ゝそくえとゝ家

き人くりくをくりさくりみ治承のゝ頃

をくりく義経と揚く胡歌をひくす より

出ぬ雲ゐくりよ源心の波を待く将軍の先

を潜くり宮殿と付ゝ仏神をくゝ

みくりよ崇なくりくの今鎌倉の地ゝ

白ゐくも井みも船弁の弁ゝ杉柳乃みくり

いよくゝ玉ゐくゝ頼朝のそ人くゝ乃井ゐし

治承と宣ゐくゝ四季の四神楽をくゝ沢鎌倉

よ作く八月の故を舎ををこるある家の乃
いけてこ本社よりこ沢と此中二階堂ハ
こよをこれここ寺なり風の夢日よ輝
き竜の彫刻よ動くき構造の乃荘厳をも
ここ中く林池のあるをこいこまく結よ
人こまりてみ白大仏堂ときこゆるい石巌
のこ動こ沢ここて乃場のあたなる沢
動ここよ中彫像乃百月をのは
こ紙宅の襖紙こ乃こひ法華をこうね凡
ところへよ金磬のこ動きをさこふもこのはこ
なこ沢代このは軍以下つくこられる

松の社造はまこくこれはこ乃こ外中此の宮
ところ有よ乃法華仏の大仏紙付こをなるよ
こ中こる人あをやこいさるひく四つた
きたこくこあをここ中の宮こ中紙等
ぬここ本いをこ西の人定光上人と云を
のあをこ乃こ一交應の沙こ関東のあのき
いやこきをすこく仏像をつくり堂舎を
建きここ乃功をこて乃こ二こ二こをよ
為驚たくあくこ乃こ中天のをこいに
白毫あくこよみくこ満月の光里をこ
や沢仏をこいこ中あ三年乃功をこやく

よなかに雲いまさナニ樓のかまへをもり
たうし故東大寺のおほきい聖武天皇の製
作金銅十丈餘の盧舎那佛なほ天竺
震旦にもなくひろく仏像ここそ世界
代の原始なれ八丈の四長なれ故大佛のおこそ
もちろんすべて金銅佛像のうつりめてあれ
ども未代よりてふれをわ思議といひつ
仏法東漸の御ちからとそ
なりとあるとうち拾地力とそ
きくふもちろんと海ゝすしといるきれともふ
こふをくくく武力をけくゝ使ゐすこそ

へこそ使ゐもなきこゝ使ゐぬ力をれ思議
もうしハさゝ故のこそ思き海へこそ
ゐしをひるゝ思ひて秋ゐをゐるゐ
蘇武漢とおしナ九年の秋の悲歌の胡
ふいにし三年の美れ思ひ為ゐ
ゐ使ゐ国なれし思ひのこもやゐゐて
く枯次蓮の花のこそいこそしこもも
まゐゐ懐出ゐゐ
つゝと故のゐ我なゐ
うねこそ清ゆゐ
かゝ故ゐこそ

なりてや旅の空より出り
るるなる神を月の廿日あまりはたち
らまれるとのあまりて都へ入るへき
まなりぬこまちらはたちかのあるふも
うきかしこしとて海とこさうへいとしのの
をむ雪ありねしも古江日帰るまちひ
ち朱買ひよあひひかちもちられ
あらへへうるひちはあうしう
ゆもしをかりは海をやうむ
十月廿三日のあうきすうる鶴舎をあらく
みやうへあむしうう宿の障子小書付

れぬきい都をいうくあきうれ
ちたうの中紀中和

斧打序　　源通光

昔九重のうちよ教ちうしうとと人をみ
よ立ち一つ三ち行よいあつよよをとうの
那波の海よ中絶の日くくを聞ぬ年と歌
ともそうりとものを年月を於ひしらの雪の
積りはを義を後の新よおちきいをうき
ありしよはは年をちられも風の
吉やうちた立ちを紀をうをうて

あるを言ひいつしかなく笑ひ侍る
谷の学問はまことの学問にあらず
をとゝゝつまらぬ物とふれあまれを
ものゝ名のみ多くして
はきくと昔今のみちひつたくる物の松
をむしりの友なる事とるべく形をも
庭の池茅をかくしたる人行ゝ親なるんと見
き人をのとなれ神ふ名ばかりとうゝ浪
見ふ四ゝ名ばかりきふつなくもまれ世俗
あるゝ四ゝ書書ゝるゝ四ゝ書書ゝるゝ
ゝ谷のえも形ばかりさゝもなにゝゝ

ゝあるを思ひきて侍る和歌の浪
形をゝゝ侍ゝ侍ゝゝゝゝゝ
ゝゝひゝも色をなをあ言侍て
古を新ゝゝゝゝゝゝゝ散ゝゝ
古今集の序ふ六人たゝ歌の見侍
とゝつゝゝ古き事行も侍ゝ紀中ゝ
世界いてゝゝひゝゝゝんと見所みゝ侍
ゝ今ばかり世ゝいゝ和ゝつき人ゝゝゝゝ
ゝゝ新人云世ゝゝゝゝゝゝゝ
ゝき昔ゝ侍ゝゝゝゝゝゝゝ
源ゝゝ歌世ゝゝゝゝゝゝゝ
ゝ本の塵ゝゝゝゝ昔ゝゝゝ

あるひとはゆくゆくはうらやましくもあるかな
ゆるしなくてもかの月の雲のあなたの
あるあるかぎりつきもてゆくあるかぎり
なやぶるまことはかりしらぬ人もあるかな
竹乃園あんもの門まえに恋しうあるかな
きもの月のくるねもきぬ乃道うら哀とそ
なる海乃秋浪とあるあれもてゆくあるかな
えてあるかぎりとしてあるかぎりあるかな
ふるはとくとくひきあるさまとえるもあ
いくあるゆるもあるかぎりとふるかぎりあ
行あるかぎりあるかぎりあるかぎりあるかな

ねまいひとはいくゆくはるかぎりあるかな
りあるひとはかぎりあるかぎりあるかぎりあるかな
日のうちあるかぎりあるかぎりあるかな十
めつしくるんとわるんとあるかぎりあるかな
行あるかぎりあるかぎりあるかぎりあるかな
とあるかぎりあるかぎりあるかぎりあるかな
ふくしるかぎりあるかぎりあるかぎりあるかな
行あるかぎりあるかぎりあるかぎりあるかな
るかぎりあるかぎりあるかぎりあるかぎりあ
けるかぎりあるかぎりあるかぎりあるかぎり
ぬかぎりあるかぎりあるかぎりあるかぎりあ

[illegible]

七十番歌合跋

藤原光俊

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]ものやし、あるさ、[illegible]ぬ
を決定め給ふ[illegible]、[illegible]とき
[illegible]、[illegible]とあつまり[illegible]ゆえ給れい[illegible]
備世のいとみ[illegible]さ[illegible]、浜庶浦[illegible]すま
[illegible]て[illegible]、[illegible]玉の篇[illegible]
鴻[illegible]、[illegible]、[illegible]積[illegible]の[illegible]
[illegible]、[illegible]の情ふ[illegible]
[illegible]、他[illegible]
[illegible]、[illegible]退[illegible]故
を温て[illegible]
[illegible]、私[illegible]

世をとりてい[illegible]日数をそ
[illegible]二[illegible]早く[illegible]
[illegible]も[illegible]眠[illegible]
身い病[illegible]巧みて遅き
[illegible]て遠[illegible]
[illegible]所い[illegible]
[illegible]の
[illegible]や

紅葉歌合序　　後京為家

大和歌[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

屋をもれて、蛍よ癡物はなちられを遮ひ、
粉蝶のやどりやよ寄をそめたるひまを
すゝぐ。名の世一字妙なるを撰用、
世古人と名はなをてはなく、おてをを第大納言
公任のをうゝ姫たるゝ已よりをひをうゝ
れわをうゝれて、倩しとのいをうひを何ひ
見るゝいはゝもとのゝはゝ巻をゝ中
よ一書左の字るゝいひ、す猪ゝ次
ゝ妙ゝもひ古ゝ和ゝるゝかれ年の
山風高くして朝の花八をゝの枝をはゝ
筆の苑嘉をゝれゝ人の文むくゝをの世を

むをゝ人是寄ようゝこかゝゝ代ゝのわをよ
弱ゝ寄ゝをゝるゝ老のはゝあをゝ〳〵はる
をはゝめて道のやはををゝわゝ身の
辱をもはわゝはゝ嘉かはゝ家のゝん
彩あをゝ一巻のゝん唐ゝをゝ
ゝゝれもゝはゝ道ゝをれゝ古十乃内
ゝひゝゝ深ゝ、たゝひゝふゝゝわゝ
をゝゝむゝいふゝも更ゝあゝゝる情を
用ひられ羅ゝ新ゝ于時弘長二年な
ゝ月の内筆を染てゝれを紀をゝ
寛治歌合跋

抑二代撰者の沙汰をはつる後、一旦判者
乃為氏卿、仰せられけるは、かたくのれかせて
甚恐悦すべしと、仰せられて、
式部丞うつのぶ、流れをくむ、
頼とも、
今もおなじ
のべ
見及ひ
書付
おのつ
ひて
かねく
ひ
法師

古今著聞集跋

橘成季

古の集作る人、その心、詩哥管絃より、
みちゝ〳〵に、時のとりて、猶世まる物語
を集めて、後のよゝまでの人のむかしをしめ
いまをかゝみ、ゆゑあるきむかしの跡、
忘れなこりをいまに、ひろく動くなく
まよく記すわざ、他事にまさるなり。
しかるに、世こぞりて、書集むれば、
反歌の草、こゝに、森のごとくなり。

ひ給ふ。古世にこゝろざしてこゝろざしてこゝろ
こゝろ、世こゝろ、古へこゝろ、記事もわしき
こゝろ、こゝろ、ときに、侍すいまれらゆるこゝ
とこゝろふたこゝろとの、侍へきこゝろふ
こゝろ、或は、あれ、記録こゝろ、世は
こゝろの、絶と、なほ、しこゝろ、ゆは
世絶、ゆこゝろ、こゝろの、こゝろ、あるこゝ
記こゝろ、こゝろの、こゝろ、あはこゝろ、
関はこゝろ、こゝ事こゝろ、こゝ世こゝろ、
こゝろ、こゝ、こゝ、こゝ、こゝ、こゝ、
しこゝ、侍こゝ、こゝ、侍こゝ、記こゝ、

[illegible]篇二十卷[illegible]篇の[illegible]
ふ耶[illegible]の[illegible]をの[illegible]
その物[illegible]をあ[illegible]せり建長六年十月
十六日をいれ高[illegible]準[illegible]清[illegible]
の奥[illegible]す[illegible]集[illegible]乃道[illegible]
れ[illegible]白樂天人丸[illegible]
乃書[illegible]をのけて甚[illegible]の[illegible]
[illegible]又酒脯菓[illegible]
[illegible]二十篇の[illegible]
一[illegible]
せ[illegible]呂律の曲を唱[illegible]

[illegible]和語を講じ[illegible]
胡砂葡萄夕[illegible]
て胡孫あり加度今月[illegible]泰山不讓土壤
[illegible]今生世俗[illegible]白黑[illegible]
出[illegible]
[illegible]武[illegible]郢曲の
[illegible]貴富[illegible]
[illegible]一獻の盃[illegible]二獻[illegible]
三獻[illegible]郢曲[illegible]
[illegible]の[illegible]獻[illegible]
[illegible]
今多年收拾[illegible]功[illegible]
[illegible]

扶桑拾葉集卷第十一終